読売新聞　２０２０年５月６日付

SDGs@スクール

貧困や紛争、乱開発、気候変動の予兆など、私たちが暮らす地球は青息吐息だ。この惑星を未来永く使える形で未来の世代に手渡すには、どうすればよいか。国連はそんな危機感から、2030年までに達成すべき行動計画を「持続可能な開発目標（SDGs）」として採択した。若者や行政、企業、団体はどんな行動を始めているのか。毎月1回お届けする。

SDGs　エスディージーズと読み、Sustainable Development Goalsという英語の頭文字からとった略称。「持続可能な開発目標」と訳されている。2015年の国連総会で採択され、貧困や飢餓、教育、男女の平等、働きがい、生産消費、生態系の保全など17項目の目標を掲げている。目標の下には、具体策や数値目標などを示した計169のターゲットがある。

「Sustainable Game」代表　山口由人さん（聖学院高校1年）

「難民救う」方法探る

SDGsを中高校生に知ってもらうイベントで、参加者の質問に答える山口さん（右）（東京都中野区の国際NGO「ワールド・ビジョン」オフィスで）＝小川祐二朗撮影

今回の主な目標

1　貧困をなくそう

10　人や国の不平等をなくそう

17　パートナーシップで目標を達成しよう

Mission

「逃走」を後悔

2016年、ドイツ・ミュンヘン。父親の仕事の都合でドイツで育った山口由人さん（15）は、小学5年生の頃のある体験をいまもまざまざと覚えている。

手にパンを持って歩いていると、道ばたに座る男が突然、「そのパンをくれ」と独語でまくしたててきた。アラブ系、40代くらいか……。見ると、片方の足がない物乞いだった。

山口さんは思わず身をすくめ、その場から逃げ出した。家に帰ってしばらくすると、「なぜ助けてあげられなかったのだろうか」と自己嫌悪が募った。

当時はシリア内戦が泥沼化しつつあり、大量の難民？が欧州各国に押し寄せていた。ドイツは最初こそ歓迎ムードだったが、テロが相次ぎ、険悪な空気が張り詰めてきた頃だった。難民に対して手を差し伸べられなかった――。そんな思いを抱えたまま、山口さんは日本に帰国した。

Action

仲間を集めて

中高一貫校の聖学院（東京都北区）に進学した山口さんは、中学1年の課外授業で、SDGsの仕組みを学ぶカードゲームを体験した。そこで、SDGsの理念「誰一人取り残さない（leave no one behind）」を知った。

「あの時、アラブ系のホームレスに手を差し伸べられなかった。この理念を知っていれば、行動に移すことができたのではないか」。そう悔やんだ一方で、SDGsには目標1「貧困をなくそう」があることも知った。

そこから、山口さんの行動が始まった。

大人ばかりのSDGsセミナーに1人で出席し、2年生になると、同学年の友人らに声をかけ、SDGsを学内で広めるため、アンケートを配布し、先生たちにはSDGsのステッカーを配った。

全国の高校生約200人が合宿し、政策提言を考える会議にも、中学生ながら特別枠で参加。そして、昨年5月、ゲーム感覚でSDGsを学ぶ中高生の団体「Sustainable Game」を設立した。

活動の柱は、「課題発見DAY」というイベントだ。会場周辺を歩いて課題を見つけ、その解決法を発表するフィールドワークのような手法で行う。自身が代表となり、地道にイベントを重ね、参加メンバーは学校の垣根を越えて24人にまで広がった。

街を歩き　問題点調査

レストラン店員のネパール人男性（左）に難民について質問する中高生たち

Goal

イベント開催

今年2月、国際NGO「ワールド・ビジョン・ジャパン」（東京）の協力で、全国の中高生36人が参加するイベントを開催した。その際、あるグループはアジア料理店でネパール人店員に難民のことを、スーパーでは、（自然や労働環境に配慮した）フェアトレード商品について尋ねた。難民問題は、SDGsの目標10「人や国の不平等をなくそう」に該当する。こうした調査、課題解決の模索は、多様な人々が協力し、社会課題解決を目指す目標17「パートナーシップで目標達成」の実践でもある。

「将来の夢は、社会課題を解決する人材の育成」と語る山口さん。イベントにはこれまでに400人以上が参加した。同志がいれば、きっと、その夢も実現するはずだ。

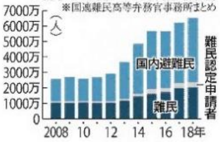
ワード？ラボ

難民

国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）によると、2018年末時点で、紛争や迫害などで故郷を追われた人のうち、保護対象とする①難民②難民認定申請者③国内避難民――の合計は約6529万人。別組織が管轄するパレスチナ難民などを加えると、計約7080万人。UNHCRの保護対象者は、08年からの10年間で、約3953万人増えた。国別では、シリア、アフガニスタン、南スーダンの順に多かった。

紛争や迫害による保護対象者

※国連難民高等弁務官事務所まとめ



編集後記　山口さんたちに会場を無償提供した国際NGO「ワールド・ビジョン」は、東京五輪・パラリンピックに出場する難民選手団に注目してもらうアイデアを若者から募った。スタッフの堂道有香さんは、「山口さんたちの行動力を見て、10代のみずみずしい感性で意見を出してほしいと思ったから」と説明する。NGOのもとには、後日、「難民について教えてほしい」と、別の高校生も訪ねてきたという。若者の心にSDGsのタネはまかれ、確実に芽を出し始めているのだと感じている。（教育ネットワーク事務局　小川祐二朗）

新聞@スクール

親子de新聞②

家庭内でも「時間割」

学校には必ず時間割がありますよね。では、皆さんのご家庭ではどうでしょう？

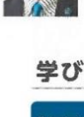
1日は24時間あるので、すべてを時間割のように区切って過ごすのは無理だと思いますが、平日であれば、「朝食時」、学校から帰宅後の「夕食前」、そして「寝る前」の三つの時間を有効に使いたいですね。

まずは朝食時。朝は親から話しかける話題に新聞を活用したいですね。朝は忙しくいろいろと制約もあるので、ピンポイントで大切な記事の「見出し」を使いましょう。「この見出しの漢字、読める？」「この写真、すごいけど何だろうね」

こうした投げかけを通じて、子どもたちは知らない言葉や漢字を覚え、時事問題にまで話を広げれば、社会情勢にも敏感になれます。

夕食前は、宿題、復習、音読などを組み込むといいですね。我が家では小学校の時は「学年×15分」を最大学習時間と設定しました。

寝る前は「読書習慣」。図鑑を用意しておくと長続きします。こうやって、子どもたちは1日の時間の使い方を自分で考えるようになっていきます。そして、ぐっすり眠った翌朝は再び新聞を使った家庭学習からスタート。やっぱり新聞って、いいよね！



酒井勇介（さかい・ゆうすけ）　学研を経て、現在は家庭教育プロデューサー。学校、家庭で新聞の活用を訴える「新聞大使（アンバサダー）」を自任し、全国で講演活動をしている。

学びに役立つ！読売新聞
読売KODOMO新聞　毎週木曜日発行　月額550円（税込み）
読売中高生新聞　毎週金曜日発行　月額850円（税込み）
ご購読の申し込みはコチラ
よみサポ　離れて暮らすお子さん・お孫さんに

ワークシート通信から

写真見て　観察力アップ

読売新聞が作成する新聞活用教材「ワークシート通信」。「子羊　のびのび」の記事を使った4月22日配信のシートについて、元小学校長の田中孝宏・教育ネットワークアドバイザーが解説します。

――小学校低学年で新聞を使うのは難しい、という先生方の声をよく耳にします。

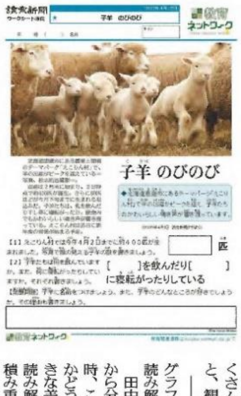
田中　新聞には動物や植物、季節を扱った写真が多く載っており、こうした記事をスクラップしておけば、生活科の授業で活用できます。

――シートでは、子羊を数えさせたり、名前をつけさせたりしました。ほかにどのような設問が考えられますか。

田中　例えば、子羊が何をしているかを考えさせてもいい。写真を見て、そこからたくさんのことを発見させると、観察力が鍛えられます。

――新学習指導要領は図やグラフなどの資料から情報を読み解く力を求めています。

田中　高学年で歴史の資料から分かることを考えさせた時、こうした訓練をしてきたかどうかで、発言内容には大きな差がありました。情報を読み解く力は、低学年からの積み重ねで育まれていくのだと実感しました。



読売新聞　ワークシート通信

子羊　のびのび

[1]　匹

[2]　[　　]を飲んだり[　　]に寝転がったりしている

教育ネットワーク

ワークシート通信　旬の話題を伝える読売新聞の記事に設問をつけ、楽しみながら取り組める新聞活用教材。毎週水曜、教員約1万3500人に無料でメール配信している。シートはA4判で、小学校版と中学・高校版（各5枚）がある。お申し込みは教育ネットワークのサイト（https://kyoiku.yomiuri.co.jp/）から。このページ左側にQRコードがあります。

読売新聞教育ネットワーク

「社会はまるごと学校」を合言葉に、学校と企業、子どもたちの交流を支援しています。1万5282個人・団体（4月現在）が参加登録しています。参加者を本紙主催イベントに優先招待したり、参加企業の教育情報を広くお伝えしたりしています。ホームページでは、専門家のコラムなどを連載し、トレーニングシートなどの教育素材も無料提供しています。メールマガジンの配信も受けられる、ネットワークへの参加登録（無料）はQRコードから。

新聞でチャレンジ

読売新聞の記事を活用した小・中学生向け教材「新聞でチャレンジ！　作文添削教室」は受験にも役立ちます。

ニュースや解説などの記事を読み、手書きで解答することで、読解力や書く力を養う家庭学習の強い味方。「トレーニングシート」と「作文添削シート」が月1回届き、添削シートを返送すると、やる気を引き出す先生のコメント付きで戻ってきます。海外在住者も利用できます。

費用は1か月2200円（税込み）、教材のみ購入する場合は1100円（同）。運営は関西の名門中学受験に実績のある進学塾「浜学園」（本部・兵庫県西宮市）が行います。お申し込みはQRコードから。